

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372400939		
法人名	有限会社ホリ		
事業所名	グループホームたんぼぼ 西棟		
所在地	熊本県玉名郡南関町四ツ原1338		
自己評価作成日	平成27年8月	評価結果市町村受理日	平成28年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41—5		
訪問調査日	平成27年9月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな田園風景を眺望できる小高い丘の上にあつて、すぐ近くには、毎年お花見の招待をしていただける大きな工場もあり、民家も点在しています。また近隣にはいろいろなお花の名所に恵まれており、機会あるごとに出かけて季節を味わっていただいております。ホーム内にも常に野の花、山の花に気を配り、四季を感じていただいております。米作農家と直接契約し、砂地で収穫されたおいしい米を購入し、卵は飼育農家から直接新鮮なものを購入したりホーム内の畑を利用者と共に作り、季節の野菜などを収穫し、おいしさを追及した料理を作っています。入居者一人一人がその人らしく安心した生活ができるように、家族、地域、医療との連携を図り、職員一人一人が入居者に寄り添い支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然に囲まれた静かな環境の中、利用者にとって家族との絆の重要性を言い続けた前代表の思いを受け継ぎ、利用者を大切にされた支援を心がけています。3か月に1回、担当者は利用者の状況報告を手書きの手紙で家族に知らせるなど、細やかな対応を実施し家庭との連携を密にしています。高齢化の進む中、身体機能の維持や安心安全の生活のケアに全職員で取り組んでいる温かい雰囲気のあるホームである。運営推進会議での多様な意見を参考に、サービスの質の向上を図りたいと努力すると共に、職員の希望するテーマを決め外部講師を招き勉強会を行う等職員の専門的な知識の向上を図っており、家族の安心と利用者の穏やかな表情に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者本位で地域の中で安全に楽しく生活できますように全職員の意識統一と向上の為に、毎日の朝礼と月1回の全体ミーティングの時に唱和している。	理念は毎朝唱和し理解を深め共有に努めている。毎月のミーティング時に、ケアの振り返りを行い、利用者一人ひとりにとって何が必要か、職員からの意見を聞き全職員で検討しており、ケアに繋げる努力が見られる。理念に謳われている安心した生活の支援に努め、「ここにおいて良かった。楽しかった。」と言って貰える事を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グランドゴルフ「たんぼぼ杯」を毎年開催し、多くの住民に楽しんで頂いている。ボランティアの受け入れも積極的に受け入れ年間行事の中にも交流が図れるように行っています。隣接する工場との相互交流や買い物や外出等地域の一員として交流を図っている。	隣接する工場から花見等の招待を受け、入居者と出掛けてバーベキューを楽しんだり、工場の職員のバンド演奏や日舞の会の訪問を受け入れる等、積極的にボランティアを受け入れ交流する中で、施設に対する理解も深まり、施設見学等へと発展している。また、地域住民を対象にグランドゴルフの「たんぼぼ杯」を開催し、参加者全員に参加賞を配るなど地域との交流に努め喜ばれている。地域の祭りや小学校の運動会、焼き物の里まつり等地域に出掛け交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援などを訴えながら、事業所の地域貢献のひとつとしてグランドゴルフ「たんぼぼ杯」を毎年開催しているが、地域の人々に向けて活かすというのはなかなか難しい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的(2ヶ月に一回)に会議を開催し、ホームの2ヶ月間のサービス実際の実績や取り組み状況を報告、家族や知見者や行政からの意見を基に話し合い、その後のサービスに活かすようにしている。	運営推進会議は、行政・他のグループホーム職員と家族(輪番で参加)等の参加を得、定期的に開催。利用者の状況や取り組みについて報告、行政からの情報提供等実施している。家族が輪番で参加する事で施設や利用者に対する理解が深まっている。	今後多様な視点からの意見を運営に活かす為に、運営推進会議委員についても検討されることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に一度の運営推進会議には町役場の担当の方に毎回出席いただき事業所の実情や取り組みを伝える等協力関係を築くようにしている。	町行政からは、運営推進会議への参加や情報の提供等の協力を得ている。運営推進会議で「認知症の予防について」質問があり、他市の取り組みを紹介した事により町も関心を持っており、今後町と連携し少しずつ取り組んでいきたいと思っている。代表は報告や書類提出等の際は直接町役場に出向き、日頃の疑問への助言を得る等連携を図っており、協力関係の強化を目指している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の介護保険法指定基準については、随時ミーティング等を行い説明して理解してもらっている。	拘束は絶対にやらないとの方針を全員が認識し、研修等により再確認を図っている。不眠時の対策も薬に頼るのではなく、散歩等昼間の活動を考える等、職員に理解を求め拘束をしない工夫が行われている。言葉使いにも配慮し、不適切と思われる場合はその都度注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については、全体ミーティングや勉強会、または回覧にて知識を高め全職員の意識を引き上げお互いが注意し合える関係を作っていくように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際自分たちの周りに対象となる方々がおられず、実感性が乏しく、勉強としては取り上げたり通達として流しても理解はできない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に家族に重要事項説明書に沿って説明を行い、「保険分」と「自費」の部分を分かりやすく1ヶ月分にして説明をし、ホーム内の見学も必ず行い納得して締結を図っている。解約も相手の問題にあったやり方でしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回利用料の支払いに足を運んで頂く事を原則としており、来所時を通してお客様または当方よりのお願相談を話している。	家族との関係継続の為、月1回は家族の訪問を促し、意見要望を聞く機会としている。また、3か月に1回担当職員が状況報告書を手書きの手紙として送付したり、面会時には利用者の状況をこまめに伝え、信頼関係を築くようにしている。家族からの「散歩が少ない」等の意見に、職員間で検討し散歩を多くする等ケアに活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングや個人面接を利用して、職員の意見を出しやすい場作りに努めている。その結果、意見や提案が行われ良いと思われる個々のケアの方法や運営方法が取り入れられている。	代表者の考えで、職場で不必要な上下関係を無くし、お互いに何でも言える環境を作り、出された意見・提案は「利用者に迷惑がかからなければ、先ずやってみる、ダメなら次へ進む」方針、職員のやる気を育てる努力がある。ケアの質の向上のために職員から研修のテーマがあげられる等、学ぶという意欲が感じられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績などを考慮して、やりがいある職場、向上心を持てるような職場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時に当ホームで経験のある職員が指導したり、他の施設への研修、県の研修参加を含め、ミーティングの中で担当を決め発表の場を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所の推進会議、玉名郡市GHの連絡協議会への参加を通して周りの見聞を広め、交流することで質を高めることを行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に対面にてゆっくりと会話を行うことで、サービスに不安を抱かせなく本人の不安を理解する対応を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安をゆっくりと話を聞ける環境に努め安心して家族の気持ちを話していただくことに心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一番困っていること、一番必要としている件を対応の中より探り、いろんなサービスの説明を行ってみることで、相談者のあったものを自らが選べるように図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に体操したり、歌ったり、リビングで過ごしたり、食事は同じものを一緒にとり、利用者によっては食事の準備後片付けや洗濯物をたたんだり畑仕事をしたり、散歩をしたり本人と共に一日を過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2ヶ月に1回の状況報告書と2ヶ月に1回のたんぼぼ便りを郵送することで家族の知らない一面を知っていただき、又訪問時の本人様との面会が良い形でできる様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会は時折あっているが、限られており、本人からの要望があってもなかなか行くことも困難であり、悩むところです。	小高い丘の上という地理的条件もあって、家族や関係者の訪問が主であり、時折友人知人の訪問がある程度。2ヶ月に1回は訪問理美容が行われており、どの方も綺麗な髪型で過ごされている。利用者から外出の希望があっても、なかなか応えられず、家族の協力に頼るほかない状況である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食卓の席や、リビングで過ごす場所、入浴の順番など 利用者同士の関係を把握し関わり合いがうまくいき孤立させないように配慮し支援している。支障が生じた場合は随時変更している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームをいろんな事情があって移る必要のある方に次の施設への不安を少しでもなくすため入所後の訪問や関係者への情報と家族・本人へのフォローができることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その場になると本人の思いよりスタッフの考えで動いてしまい、一部の人にストレスとして出ることもあり、朝礼・連絡ノート・全体ミーティング・その場の注意で極力本人本位の重視の指導に努めている。	一人ひとりに寄り添い、ゆったりとした中で、横に座って自然と出てくる思いを聴き取るよう心がけている。まるごとケア記録に利用者の言動・表情・行動を記録し、思いを把握するよう努め、職員間で共有し、理念の「その人らしく安心した生活」の支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしも本人に寄り添い話を聴く中で把握。また家族からの情報等で、生活環境、サービスの利用経過等の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、連絡帳を勤務に入る前に必ず読んでおくことを指導して、朝礼時または勤務交代時には必ず申し送りをを行い、その日の本人に合った対応をするようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的ミーティングの場や現場スタッフに記入を依頼したり家族訪問時に希望などを聞き、又主治医との相談も入れたり、現状のニーズに近い介護計画とモニタリングができています。	ミーティング時に全職員でカンファレンスを実施し、3か月に1回モニタリング、6か月に1回プランの見直しを行っている。家族の面会時や電話で要望を聞き、往診時に医師からの意見を聞きプランに反映している。介護支援専門員は、利用者の力を活かしたその人らしい生き方を支援する事をポイントにプランを作成し、家族に説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、連絡帳、まるごととらえたケア記録に記録を行い、課題に対してうまくいった方法など職員間で情報を共有して、今後の計画に役立てるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況の変化やニーズに対して医療機関との連携や外出による気分転換等、柔軟な支援やサービスを行っていく。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活の中に生きがいや張りを持っていただくためにボランティアの訪問や行事計画の実践の中で今以上に地域資源の上手な利用を行うことでより心身が健康になるように努力していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みの病院受診付き添い又協力医の定期的な往診や受診により家族との相談を交え、安心して医療を受けていただいている。	家族の同意の下、24時間対応で往診可能な協力医がかかりつけ医となっており、月2回の定期的な往診で利用者全員の健康管理を行っている。受診時は介護支援専門員が付き添って医師との情報交換を行い、医師からの指示は申し送りノートに書き込んで情報を共有している。利用者に変化があった時は随時家族に報告している。緊急時の対応について、リビングの目に付きやすい場所に掲示してある。また、専門医への受診は家族対応としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護師の配置はありません。協力医療機関との24時間体制の対応の取り交わしは行っており、2つの医療機関からの定期的な往診と他の医療機関への定期受診を行っ		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報の提供と、病院への同行をすることによって本人や家族の安心に努めており、入院時の面会や関係者への連絡を行っている。また地域連携室との交流の場での情報交換も訪問して入手に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の場合、人員体制や高レベルの支援方法も必要で現時点では困難であると思われる。そのため、連携している医療機関に搬送し、対応してもらうようにしている。本人・家族と出来るだけ早い段階で話し合い事業所としてできることを行っていく。	看取りは行わない方針で、医療的支援が必要ないギリギリの時点までは、協力医と連携しホームで対応できることを入所時に説明し、家族の理解を得ている。医療処置が必要になった場合は入院となるが、その後も家族・病院・施設で話し合いを行っている。退院して施設に帰る例や、家族が施設に1ヶ月位泊まり込み、その後入院した例、利用者が退院して施設に帰りたいと訴えて施設に帰って亡くなられた例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体ミーティング、研修、マニュアルと情報として流しており、職員個々の能力の違いによる対応の差がないように繰り返し訓練していく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署と防災会社の協力を得て防災避難訓練を行っている。定期的にスプリンクラーの点検を行っている。	消防署や消火器関係の会社の協力を得、避難訓練を実施しており、スプリンクラー等の点検も定期的実施している。地域消防団との協力体制の弱体化に伴い、隣接の会社からの協力体制を整える等、災害対策の強化を図っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に言葉の使い方、対応には力を入れています。職員用のトイレにもご利用者の人格および言葉遣いについて張り出し理解を深めています。重要書類は事務所に保管・管理し、プライバシーの保護に努めています。	プライバシーについての研修を実施し意識づけを行っている。言葉使いについては継続した勉強会を実施し、方言を交えながら、利用者の人格やプライドを損ねないよう配慮した会話が交わされている。また、居室は利用者の家という考えから、職員は掃除以外に部屋の模様替えなどには手を出さず、家族に任せており、持ち物などあまり触らないようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉のかけ方や毎日の関りの中で、信頼関係ができた時に利用者が自分の気持ちを訴えることができますと思います。気持ちを受け入れやすい環境作りに力を入れています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	つい職員のペースで行って利用者との口論もあっていますがその都度またミーティングの中で反省する場面もあり、介護者としての誠意とプライドで落ち着いて業務に臨むようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一回、訪問散髪に来ていただいております。洋服も自分で選べる方には自身で選んで頂いており、そうでない方は着方が偏らないように配慮しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で収穫した野菜を利用したり、できる方とは一緒に準備や後片付けをし職員も利用者と同じ食事を一緒に食べて味を批評したり食事の準備・後片付けも一緒にできている。	調理担当者が配置され、地産地消を目標に地域で作られた旬の食材を使った筍ご飯や栗ご飯、お雛祭りのちらしずし、土用の丑の日のかば焼きなど季節感や行事食が取り入れられている。各テーブルで職員も一緒に食事を取りながら見守りが行われている。花見等には手づくり弁当を持参したり、時には外食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状態と状況をしっかり把握して本人に必要な食事提供の仕方、水分の進め方・食事摂取のやり方もおいしく確実に安全に食していただけるように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自ら歯磨きが可能な利用者様には、自身で行っていただいている。ご自身でできない場合はうがい等を行い口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のサインを見逃さずに昼夜問わず、トイレでの排泄ができるように支援していますが、一人一人の状況を判断できなくて失敗もあっています。少しでも失敗やパットの使用を減らせるように努めています。	夜も昼もトイレでの排泄を基本とし、個々の排泄パターンや仕草等からトイレへ誘導している。リハビリパンツやパット等一人ひとりに合ったものを検討し使い分けてオムツの使用を減らす努力が見られる。散歩や食事により無理のない排便の支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬や浣腸等に頼らない自然な排便ができるように取り組んでいる。朝からの運動や繊維質の多い食事及び必要な水分量確保等により、予防に取り組んでいる。高齢になると必要時に薬の必要があるため、無理のない排便や下痢がないように対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日おきの入浴だが楽しみにしている。拒否が強い場合はシャワー浴、足浴のみにしたりしている。体調により入浴できなかった場合は翌日に入浴を行っている。	一日おきの入浴支援を行い、体力の低下により浴槽に浸かれない利用者にはシャワー浴での対応も取り入れている。入浴拒否の場合は時間を変えたり担当を変える等して、気分良く入浴してもらえるよう工夫している。玉名温泉の足湯やユズ湯・菖蒲湯などの楽しみも取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠については、日頃より昼夜逆転のないように日中は運動などを取り入れたレクリエーション等により、覚醒を保ちながら活動されるように支援している。状況に応じては居室で休んでいただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の確認は職員により責任を持って行っている。薬の説明書にて名前、作用及び副作用等の注意事項を確認するようにしているが、全員把握はできていないため、再度理解に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者によっては畑仕事や食事の買い出し、準備、後片付け、ホーム周囲の散歩等をしていただいている。ゲーム、作品作り、誕生会、月の行事及び季節の行事を通して、利用者様に楽しんでいただき気分転換等を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周囲の散歩などいつでも行かれているが、天気次第では利用者全員に声かけして散歩したり、食事をしたりしている。ご家族との食事で外出も行われている。	周りを自然に囲まれ恵まれた環境にあり、天気の良い日は揃って散歩や探索を楽しむ日常的な外出の他、鯉のぼりや菖蒲・バラの花見等季節を感じる計画を立て、施設のワゴン車や介護車での外出も実施している。年に1回の買い物ツアーでは好きなものを選んで買い物する喜びもある。また、家族の協力を得て外食やお墓参り等も実施されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭的なトラブル防止の意味もあり、個人的にはお金は所持されていません。但し必要な買い物は立替払いによりその時にスタッフ同伴にて買い物をしたり、また買い物ツアーの計画の中で必要な物を購入されるように支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話をしたり、ご家族にも電話を取次ができることを伝えています。郵便物も制限はしておりません。しかし、できるだけ面会していただければと思っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い玄関ホールにはスロープ、広い廊下には手すりやエアコン、リビングにはゆったりと寛げるソファや大型テレビ、エアコン、居室やどの空間も大きな窓があり、四季の景色、鳥や虫の音が楽しめます。浴室やトイレも清潔保持に努めています。	玄関ホールをはじめ廊下などゆったりとした共用空間には、利用者の安全を考慮したスロープ、広い廊下には手すりやソファが設けられている。リビングの壁面には職員と利用者が作った手づくりカレンダーが季節を報せている。お気に入りの場所に座りにテレビを見る人、おしゃべりを楽しむ人等思い思いの時間を過ごす利用者の姿が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれにゆっくりできるスペースと自由に自分の思いの場所に行くこともでき、入居者様同士ソファで楽しみ食事テーブルを囲んで雑談や作業で過ごすよう工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は一人一人自由にご使用いただいております。馴染みの物や好みのもを持ち込まれたりして、安全に過ごしやすいように使っています。	居室入口には職員手づくりのコスモス等の花の絵が掛けられ部屋の名前となっている。ベットとタンスのみが備え付けられており、それぞれ思い出の品を持ち込んでいる。読書好きな人の部屋には沢山の本が並び、花の好きな人の部屋には沢山の花の写真が飾られている。「忘れないで」のメッセージを込め、家族写真に一人ひとりの名前を書いて飾ってある部屋もあり、それぞれに家族のあたたかい思いの詰まった部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーで手すりやスロープもあり利用者の安全を考えた造りである。散歩やホーム敷地内の畑やベンチに出られる時も職員が見守りやすい造りとなっています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372400939		
法人名	有限会社ホリ		
事業所名	グループホームたんぼぼ 東棟		
所在地	熊本県玉名郡南関町四ツ原1338		
自己評価作成日	平成27年8月	評価結果市町村受理日	平成27年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41—5
訪問調査日	平成27年9月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな田園風景を眺望できる小高い丘の上にあつて、すぐ近くには、毎年お花見の招待をしていただける大きな工場もあり、民家も点在しています。また近隣にはいろいろなお花の名所に恵まれており、機会あるごとに出かけて季節を味わっていただいております。ホーム内にも常に野の花、山の花に気を配り、四季を感じていただいております。米作農家と直接契約し、砂地で収穫されたおいしい米を購入し、卵は飼育農家から直接新鮮なものを購入したりホーム内の畑を利用者と共に作り、季節の野菜などを収穫し、おいしさを追及した料理を作っています。入居者一人一人がその人らしく安心した生活ができるように、家族、地域、医療との連携を図り、職員一人一人が入居者に寄り添い支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者本位で地域の中で安全に楽しく生活できますように全職員の意識統一と向上の為に、毎日の朝礼と月1回の全体ミーティングの時に唱和している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グランドゴルフ「たんぼぼ杯」を毎年開催し、多くの住民に楽しんで頂いている。ボランティアの受け入れも積極的に受け入れ年間行事の中にも交流が図れるようになっていきます。隣接する工場との相互交流や買い物や外出等地域の一員として交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援などを訴えながら、事業所の地域貢献のひとつとしてグランドゴルフ「たんぼぼ杯」を毎年開催しているが、地域の人々に向けて活かすというのはなかなか難しい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的(2ヶ月に一回)に会議を開催し、ホームの2ヶ月間のサービス実際の取り組み状況を報告、家族や知見者や行政からの意見を基に話し合い、その後のサービスに活かすようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に一度の運営推進会議には町役場の担当の方に毎回出席いただき事業所の実情や取り組みを伝える等協力関係を築くようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の介護保険法指定基準については、随時ミーティング等を行い説明して理解してもらっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については、全体ミーティングや勉強会、または回覧にて知識を高め全職員の意識を引き上げお互いが注意し合える関係を作っていくように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際自分たちの周りに対象となる方々がおられず、実感性が乏しく、勉強としては取り上げたり通達として流しても理解はできない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に家族に重要事項説明書に沿って説明を行い、「保険分」と「自費」の部分を分かりやすく1ヶ月分にして説明をし、ホーム内の見学も必ず行い納得して締結を図っている。解約も相手の問題にあったやり方で行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回利用料の支払いに足を運んで頂く事を原則としており、来所時を通してお客様または当方よりのお願相談を話している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングや個人面接を利用して、職員の意見を出しやすい場作りに努めている。その結果、意見や提案が行われ良いと思われる個々のケアの方法や運営方法が取り入れられている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績などを考慮して、やりがいある職場、向上心を持てるような職場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時に当ホームで経験のある職員が指導したり、他の施設への研修、県の研修参加を含め、ミーティングの中で担当を決め発表の場を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所の推進会議、玉名郡市GHの連絡協議会への参加を通して周りの見聞を広め、交流することで質を高めることを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に対面にてゆっくりと会話を行うことで、サービスに不安を抱かせなく本人の不安を理解する対応を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安をゆっくりと話を聞ける環境に努め安心して家族の気持ちを話していただくことに心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一番困っていること、一番必要としている件を対応の中より探り、いろんなサービスの説明を行ってみることで、相談者のあったものを自らが選べるように図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に体操したり、歌ったり、リビングで過ごしたり、食事は同じものを一緒にとり、利用者によっては食事の準備後片付けや洗濯物をたたんだり畑仕事をしたり、散歩をしたり本人と共に一日を過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2ヶ月に1回の状況報告書と2ヶ月に1回のたんぽぽ便りを郵送することで家族の知らない一面を知っていただき、又訪問時の本人様との面会が良い形でできる様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会は時折あっているが、限られており、本人からの要望があってもなかなか行くことも困難であり、悩むところです。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食卓の席や、リビングで過ごす場所、入浴の順番など 利用者同士の関係を把握し関わり合いがうまくいき孤立させないように配慮し支援している。支障が生じた場合は随時変更している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームをいろんな事情があつて移る必要のある方に次の施設への不安を少しでもなくすため入所後の訪問や関係者への情報と家族・本人へのフォローができることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その場になると本人の思いよりスタッフの考えで動いてしまい、一部の人にストレスとして出ることもあり、朝礼・連絡ノート・全体ミーティング・その場の注意で極力本人本位の重視の指導に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしも本人に寄り添い話を聴く中で把握。また家族からの情報等で、生活環境、サービスの利用経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、連絡帳を勤務に入る前に必ず読んでおくことを指導して、朝礼時または勤務交代時には必ず申し送りをし、その日の本人に合った対応をするようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にミーティングの場や現場スタッフに記入を依頼したり家族訪問時に希望などを聞き、又主治医との相談も入れたり、現状のニーズに近い介護計画とモニタリングができています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、連絡帳、まるごととらえたケア記録に記録を行い、課題に対してうまくいった方法など職員間で情報を共有して、今後の計画に役立てるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況の変化やニーズに対して医療機関との連携や外出による気分転換等、柔軟な支援やサービスを行っていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活の中に生きがいや張りを持っていただくためにボランティアの訪問や行事計画の実践の中で今以上に地域資源の上手な利用を行うことでより心身が健康になるように努力していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みの病院受診付き添い又協力医の定期的な往診や受診により家族との相談を交え、安心して医療を受けていただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護師の配置はありません。協力医療機関との24時間体制の対応の取り交わしは行っており、2つの医療機関からの定期的な往診と他の医療機関への定期受診を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報の提供と、病院への同行をすることによって本人や家族の安心に努めており、入院時の面会や関係者への連絡を行っている。また地域連携室との交流の場での情報交換も訪問して入手に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の場合、人員体制や高レベルの支援方法も必要で現時点では困難であると思われます。そのため、連携している医療機関に搬送し、対応してもらおうようにしている。本人・家族と出来るだけ早い段階で話し合い事業所としてできることを行っていく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体ミーティング、研修、マニュアルと情報として流しており、職員個々の能力の違いによる対応の差がないように繰り返し訓練していく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署と防災会社の協力を得て防災避難訓練を行っている。定期的にスプリンクラーの点検を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に言葉の使い方、対応には力を入れています。職員用のトイレにもご利用者の人格および言葉遣いについて張り出し理解を深めています。重要書類は事務所にて保管・管理し、プライバシーの保護に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉のかけ方や毎日の関りの中で、信頼関係ができた時に利用者が自分の気持ちを訴えることができると思います。気持ちを受け入れやすい環境作りに力を入れています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	つい職員のペースで行って利用者との口論もあっていますがその都度またミーティングの中で反省する場面もあり、介護者としての誠意とプライドで落ち着いて業務に臨むようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一回、訪問散髪に来ていただいております。洋服も自分で選べる方には自身で選んで頂いており、そうでない方は着方が偏らないように配慮しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で収穫した野菜を利用したり、できる方とは一緒に準備や後片付けをし職員も利用者と同じ食事を一緒に食べて味を批評したり食事の準備・後片付けも一緒にできている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状態と状況をしっかり把握して本人に必要な食事提供の仕方、水分の進め方・食事摂取のやり方もおいしく確実に安全に食していただけるように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自ら歯磨きが可能な利用者様には、自身で行っていただいている。ご自身でできない場合はうがい等を行い口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のサインを見逃さずに昼夜問わず、トイレでの排泄ができるように支援をしていますが、一人一人の状況を判断できなくて失敗もあっています。少しでも失敗やパットの使用を減らせるように努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬や浣腸等に頼らない自然な排便ができるように取り組んでいる。朝からの運動や繊維質の多い食事及び必要な水分量確保等により、予防に取り組んでいる。高齢になると必要時に薬の必要があるので、無理のない排便や下痢がないように対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日おきの入浴だが楽しみにしている。拒否が強い場合はシャワー浴、足浴のみにしたりしている。体調により入浴できなかった場合は翌日に入浴を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠については、日頃より昼夜逆転のないように日中は運動などを取り入れたレクリエーション等により、覚醒を保ちながら活動されるように支援している。状況に応じては居室で休んでいただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用の確認は職員により責任を持って行っている。薬の説明書にて名前、作用及び副作用等の注意事項を確認するようにしているが、全員把握はできていないため、再度理解に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者によっては畑仕事や食事の買い出し、準備、後片付け、ホーム周囲の散歩等をしていただいている。ゲーム、作品作り、誕生会、月の行事及び季節の行事を通して、利用者様に楽しんでいただき気分転換等を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周囲の散歩などいつでも行かれているが、天気次第では利用者全員に声かけして散歩したり、食事をしたりしている。ご家族との食事でも外出も行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭的なトラブル防止の意味もあり、個人的にはお金は所持されていません。但し必要な買い物は立替払いによりその時にスタッフ同伴にて買い物を رفتたり、また買い物ツアーの計画の中で必要な物を購入されるように支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話をしたり、ご家族にも電話を取次ができることを伝えています。郵便物も制限はしておりません。しかし、できるだけ面会していただければと思っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い玄関ホールにはスロープ、広い廊下には手すりやエアコン、リビングにはゆったりと寛げるソファや大型テレビ、エアコン、居間やどの空間も大きな窓があり、四季の景色、鳥や虫の音が楽しめます。浴室やトイレも清潔保持に努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれにゆっくりできるスペースと自由に自分の思いの場所に行くこともでき、入居者様同士ソファで楽しみ食事テーブルを囲んで雑談や作業で過ごすよう工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は一人一人自由にご使用いただいております。馴染みの物や好みのものを持ち込まれたりして、安全に過ごしやすいように使っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーで手すりやスロープもあり利用者の安全を考えた造りである。散歩やホーム敷地内の畑やベンチに出られる時も職員が見守りやすい造りとなっています。		